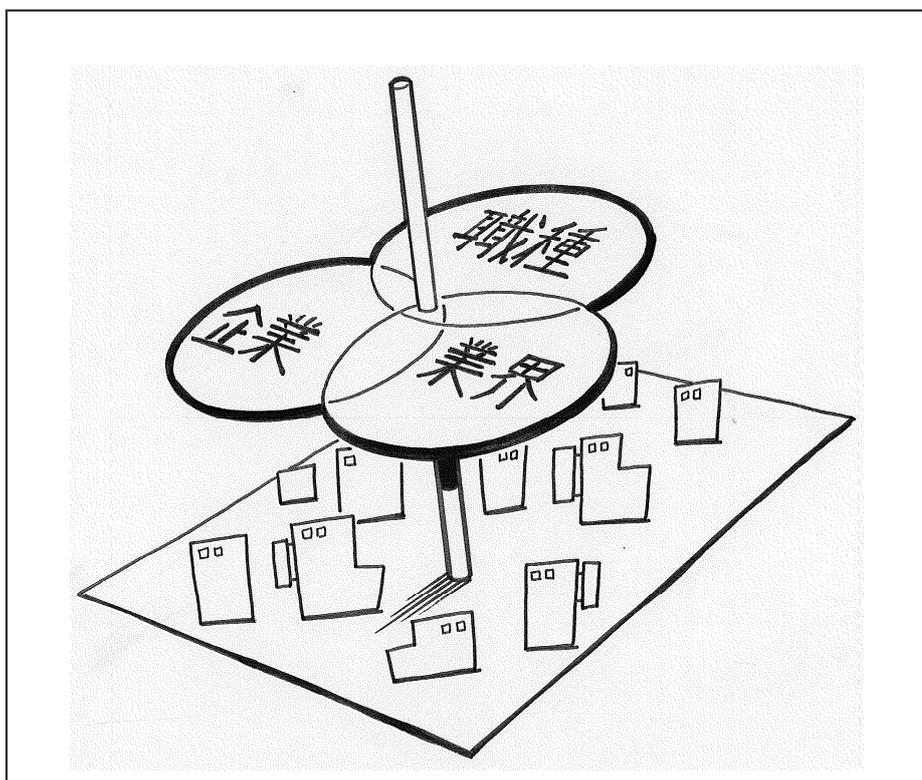


# 業界・企業研究入門

## 会社選びの第一歩

講師用手引き

ver. 2.0



監修



財団法人 海外技術者研修協会

## 学習スケジュール

◆はじめに(概要・目的・提出物・評価方法)	3
Part1オリエンテーション	
第1回 「会社選びに必要な＜自分軸＞とは？」	7
Part2 業界調査	
第2回 日本の主要業界を知る(1) 調査の準備をする	12
第3回 日本の主要業界を知る(2) 調査方法と手順を学ぶ	16
第4回 日本の主要業界を知る(3) 業界について調査する	21
第5回 日本の主要業界を知る(4) 発表の準備	24
第6回 日本の主要業界を知る(5) プレゼンテーションのリハーサル	26
第7回 日本の主要業界を知る(6) プレゼンテーション	29
Part3 業界軸／職種軸を考える	
第8回 私の業界軸／職種軸(1) 仕事を業界軸で考える	32
第9回 私の業界軸／職種軸(2) 仕事を職種軸で考える	35
Part4 企業軸を考える	
第10回 私の企業軸(1) 企業選びの条件	37
第11回 私の企業軸(2) 大企業と中小企業	40
第12回 私の企業軸(3) 仕事を企業軸で考える	42
Part5 まとめ	
第13回 会社選びのための＜自分軸＞(1) 最終レポート作成	44
第14回 会社選びのための＜自分軸＞(2) 発表	46
第15回 社会人基礎力「チームで働く力」私の強みと今後の課題	48
◆各回のキーワード	52
■総合評価シート	53

## ◆コースの概要

### 1. 概要・目的

自分軸探求を通して、業界に関する知識と日本語運用力を養うと同時に、企業が求める「社会人基礎力<チームで働く力>」の実践的なトレーニングを行うことを目指す。

就職活動を行っている学生（以下、就活生）は、入社後主体的に力を発揮できる企業を選択するために、「業界研究」「職種研究」「企業研究」を行います。その中で、徐々に、自分にとっての企業選びの条件、価値観が形成されていきますが、それは**自分軸**ということばによって、就活生の間で、あるいは就職活動関連サイト上で、1つのキーワードとなって共有されています。この自分軸というものがないと、いつまでも企業を絞り込めずじたり、また、正しい企業比較ができず、イメージや外見だけで企業を選んでしまい、せっかく就職してもすぐにやめてしまうという結果に至ることが多いようです。

そこで、本コースの第一目的を**自分軸探し**とし、その手順として①「業界」「職種」「企業」について情報収集の方法を学び、②調査・分析を行い、最終的に③学習者それぞれの自分軸の形成を目指します。

また、もう1つの目的が「**ピア（仲間）関係の構築**」です。就職活動の成功に仲間の協力が大きく影響するという体験者たちの声を参考に、グループ活動を通して**互いの協力のもとに自分軸を形成**していくようデザインしました。

カスタマイズの指標として推奨モデルを提示していますが、さらに現場に合わせてお使い下さい。

### 2. 授業内容

第1回：オリエンテーション（動機づけ）

第2～7回：業界調査

世の中にどのような業界があるのか、また、その位置づけと動向を調べます。多種多様な業界があるため、ここではグループで調査し、プレゼンテーションで互いの情報を共有することで視野を広げます。

第8～9回：業界軸／職種軸を考える

業界調査の手法を理解したところで、実際に自分のやりたい仕事は何か、それはどんな業界や職種で実現できるのかを考え、自分の業界軸、職種軸を完成します。

### 第10～12回：企業軸を考える

企業文化や職場環境、待遇条件など、企業を選ぶ際に必要な視点を学び、自分が重要視したい条件とは何かを考え、企業軸を完成します。

### 第13～14回：会社選びのための＜自分軸＞

これまで考えた3つの軸から、＜自分軸＞をまとめ、発表します。

### 第15回：社会人基礎力「チームで働く力」最終自己評価

企業にとってチームワークの重要性とは何かを、企業のトップの意見を参考にしながら考えます。また、グループ活動後に毎回自己評価を行っていた「チームで働く力」について最終自己評価を行ない、自分の強みと今後の課題をまとめて発表します。

## 3. 口頭発表

第7回：「中間発表 業界調査プレゼンテーション」（ビジター参加）

第14回：「最終発表 会社選びのための＜自分軸＞」（ビジター参加）

各発表は評価の対象になります。

## 4. 課題シート提出

第7回：課題シート1「業界調査」

第9回：課題シート2「私の業界軸／職種軸」

第12回：課題シート3「私の企業軸」

第13回：最終レポート「会社選びのための＜自分軸＞」

以上は、時間内で書き終わらなかった場合は宿題とし、できるだけ早く（期限を決めて）提出させます。各シートは評価の対象になります。

## 5. 社会人基礎力「チームで働く力」自己評価シート

第3～12回までの授業では、授業の最後に5分ほど時間をとり、グループ活動を通して見た社会人基礎力の「チームで働く力」の6つの能力について、自己評価します。活動の中で特に発揮できたものとできなかったものを、それぞれ1～2つ挙げて、その理由を具体的に記述するようになっています。発揮できなかった力は次回意識させるようにして下さい。授業の最終回（第15回）に振り返り、チームで仕事をする際によく発揮できる力（自分の強み）

と、さらに努力しなければならない力を明確にします。

## 6. 評価方法

1. 中間発表：業界調査プレゼンテーション 9項目 36点満点（活動冊子 p. 50）  
4段階評価（良い／概ね良い／やや難あり／要改善）
  1. グループ全体に対して4項目
    - ①内容（よく調査できていたか、調査項目は十分か）
    - ②構成（話の流れはわかりやすかったか）
    - ③説得力（内容がよく伝わったか）
    - ④視覚資料（まとめ方はわかりやすかったか）
  2. 個人に対して5項目  
言語：⑤文法全般／⑥語彙、表現  
非言語：⑦声の大きさ、スピード／⑧イントネーション、発音／⑨アイコンタクト
2. 課題シート1「業界調査」 5項目 20点満点（活動冊子 p. 51）  
4段階評価（良い／概ね良い／やや難あり／要改善）
  1. 内容に対して2項目
    - ①情報収集力（プレゼンの調査項目に沿ってよく収集できたか）
    - ②情報分析力（収集した情報に基づいて自分の考えが述べられているか）
  2. 日本語力
    - ③文法（活用、助詞、接続詞等文法全般）
    - ④表記（表記ミスはないか、漢字を適度に使用しているか）
    - ⑤表現（文体の一致、使用語彙や表現のバランス）
3. 課題シート2「私の業界軸／職種軸」 5項目 20点満点（活動冊子 p. 52）
4. 課題シート3「私の企業軸」 5項目 20点満点（活動冊子 p. 53）
5. 最終レポート及び最終発表「会社選びのための＜自分軸＞」 7項目 28点満点（活動冊子 p. 54）  
4段階評価（良い／概ね良い／やや難あり／要改善）
  1. 内容に対して2項目
    - ①論理力（論旨の展開）

②分析力（記述すべき項目がすべて網羅されているか、根拠が調査や分析に基づいたものになっているか）

2. 日本語力に対して3項目

- ③文法（活用、助詞、接続詞等文法全般）
- ④表記（表記ミスはないか、漢字を適度に使用しているか）
- ⑤表現（文体の一致、使用語彙や表現のバランス）

3. 発表（質疑応答能力）

- ⑥受信力（相手の質問の意図を理解しているか）
- ⑦発信力（相手が理解できるようにことばを選び、的確に答えているか）

7. 総合評価：（手引き p. 53）

上記1～5までの成果と授業中の作業活動によって評価する。評価方法は（手引き p. 54）を参照。

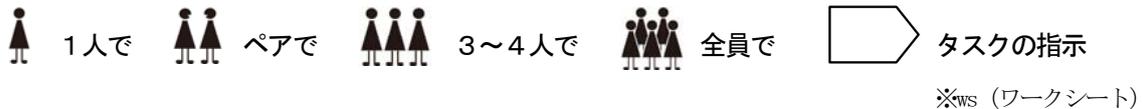
8. その他

「社会人基礎力（チームで働く力）」の自己評価。点数への換算はなし。

実施時：第3回～12回（活動冊子 p. 49）、及び第15回に最終自己評価（活動冊子 p. 55）

評価方法：自己評価 6つの能力について、特に発揮できたものとできなかったものを、それぞれ1～2つ挙げて、その理由を具体的に記述する。

アイコンについて：それぞれの内容に合わせて、活動のサイズをアイコンで示しています。各項目の指示に合わせて、活動を進めて下さい。



（ ）内の活動時間について：1クラス15人を想定して考えた活動時間の目安です。クラス人数によって調整して下さい。

Part 1 オリエンテーション

第1回 「会社選びに必要な＜自分軸＞とは？」

3つの軸からのアプローチ

●目的

本コースの概要、到達目標の理解。

●目標

コース全体の流れとキーワード＜自分軸＞、＜業界＞、＜職種＞、＜企業＞を理解します。  
 また学習者が企業で求められる「社会人基礎力」を意識化できるよう、グループ活動後に行う  
 「チームで働く力」の自己評価シートをつけました。そのために初回の授業では、自己評価の  
 前段階として「チームで働く力」を構成する6つの能力についての具体的なイメージを持つ活  
 動を行います。

●手順

- 1) タスク1・2 動機付け
- 2) タスク3・4 活動内容と目標の理解と確認
- 3) タスク5 社会人基礎力「チームで働く力」の理解

●準備するもの

ストップウォッチ、リソース集

① 会社選びに重要視したいことを考える。 (15分) -

動機付けの活動として、各自が現時点で就職したいと思うのはどのような会社かを考え、下の  
 枠内にまとめます。その後グループで共有して下さい。

学生が書いたものは初期評価用として講師用にもコピーで保管して下さい。学習者にも、最終  
 レポート「会社選びのための＜自分軸＞」との変化が見られるようにポートフォリオに保管す  
 るよう指示して下さい（最終レポートと比較することができます）。

個人で「会社選びに重要視したいこと」をまとめ、考えをグループで共有する。

② 就活中の日本人学生の考えを知る。 (15分) -

\* リソース集 (p.3) 資料1 「企業を探すためのあなたの判断軸、基準はどのようなものですか？」  
 を使用

まず個人で、資料1「企業を探するためのあなたの判断軸、基準はどのようなものですか？」を読みます。そして、タスク1で話し合った自分たちの会社選びの視点と比較して気づいたこと等をグループで話し合います。企業を選ぶためには、あらゆる情報（業界、職種、企業文化について）を知る必要があるということをクラス全体が認識し、本コースで学ぶことの動機付けとなることを目指します。

個人で日本人学生の会社選びの視点を理解し、グループで話し合い、クラス全体でまとめる。

③ 会社選びに必要な＜自分軸＞とは？ ＜自分軸＞の意味を考える。

(10分) 

**\* 講義テーマの確認**

まず、＜自分軸＞が何を意味するかを考えるため、日本人就活生の発言（活動冊子 p.6）を参考に、グループで話し合いながら下の枠の中に記入します。最後にクラス全体で共有して下さい。

→ [解答例] 価値観、大切にしていること、判断基準、妥協できないこと…等。

＜自分軸＞とは何かをグループで考え、クラスで共有する。

④ ＜自分軸＞を作るために必要な3つの視点を理解する。 (10分) 

活動冊子 (p.8) のイラスト＜会社選びの自分軸ができるまで＞を見ながら、今後の授業の流れを説明します（下は説明例）。

1. 会社選びに必要な自分軸を作るために必要な視点として、授業で「業界」「職種」「企業」研究を行う。
2. 自己分析をもとに、自分なりの＜業界軸・職種軸・企業軸＞を探り、最終的にそれらを統合し、自分軸の完成を目指す。

生命保険会社、あるいは損害保険会社（金融業界）で	＜業界軸＞	}	＜自分軸＞
営業の仕事がしたい	＜職種軸＞		
その企業は働く人を大切にしてくれるところがいい	＜企業軸＞		

※3つの軸それぞれを自分軸と言ってもいいのですが、混乱を避けるため、本コースでは、3つの軸を統合したものを自分軸と定義しました（上記の例はかなり絞り込んだ自分軸の例であり、通常は最初から可能性を狭めないよう、もっと複数の軸を持ちます）。

※査証が交付されにくい職種もあります。職種別在留資格認定交付状況については、「就活へ！はじめの一

歩」第3回めの授業で扱っていますが、学生には事前に再度確認するよう伝えて下さい。

「就活へ！はじめの一步」リソース集 p.4『平成21年における留学生等の日本企業等への就職状況について』  
<http://www.moj.go.jp/content/000050170.pdf>（平成22年7月法務省入国管理局）を参照。

5 企業で求められる「社会人基礎力<チームで働く力>とは何かを知る。

(40分) 

\*リソース集 (p.4) 資料2の表を見ながら「企業で求められる社会人基礎力」を説明する。

次回から、授業の中で行うグループ活動を通して、社会人基礎力の中の「チームで働く力」を実践的にトレーニングしていきます（自己評価を意識化のツールとする）。そのために、ここでは各能力が示す具体的な行動とは何かを考えます。

授業で「チームで働く力」を扱う理由は、

- ①「チームワーク」は日本企業の特徴であり強みである。一方、日本企業の外国人留学生に対するイメージは「自己主張」が強く、「協調性」は低いというもので、良くも悪くも、チームワークにつながる特性が企業側の外国人採用ポイントの1つとなっていることがわかる。
  - ②今回のトレーニングが、今後の就職活動（面接やエントリーシート作成）に彼らの<強み>としてアピールできること。
  - ③就職活動を乗り切るための仲間作り（ピア関係の構築）と相関関係にある。
- 以上の3点です。

■参考文献

「社会人基礎力に関する研究会—『中間取りまとめ』—」社会人基礎力に関する研究会（平成18年1月）

<http://www.meti.go.jp/press/20060208001/shakaijinkisoryoku-honbun-set.pdf>

「外国人留学生の採用に関する調査結果概要から」独立行政法人労働政策研究・研修機構（平成19年6月）

[http://www.jil.go.jp/event/ro\\_forum/resume/070627/jlpt.pdf](http://www.jil.go.jp/event/ro_forum/resume/070627/jlpt.pdf)

手順)

1. リソース集 (p.4) 資料2「企業で求められる社会人基礎力」の中の<チームで働く力>を構成する6つの能力要素の「内容」をクラス全体で読みます。
2. グループに分かれ、活動冊子 (p.9) のワークシート1-2の質問について話し合い、それぞれ

れの力を発揮するための「具体的な行動例」を考えます。その結果を最後にクラス全体で共有します。

[タスク5 解答例]

発信力 : 自分の意見をわかりやすく伝える力

例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。

質問) どうすれば整理して話せるか?

→具体的な行動例) 論点を書き出し整理する。

質問) 相手に理解してもらうためにどうすればいいか?

→具体的な行動例) 一方的に話さず、途中で理解確認を入れる。

各能力についての解答例は以下の通り。

- ・発信力：必要に応じてメンバーに情報を伝えられる、報告・連絡・相談をしながら活動ができる…等。
- ・傾聴力： あいづちを打つ、うなづく、からだを話し手に向ける、相手が話し終わってから質問をする、自分と異なる意見でもよく聴く…等。
- ・柔軟性： やり方が違うときは妥協点（譲り合える点）を見つける、相手の立場や気持ちを配慮して考えられる…等。
- ・状況把握力： 自分の役割が何かよく理解して活動に取り組める、メンバー全員に確認をとりながら作業を進める（次に進んでもいいか、全員が理解しているか）、作業が遅れている人に協力したり情報を提供したりする…等。
- ・規律性： 活動時間の使い方を自己管理できる、課題などの提出期限を守れる、社会的なルールやマナーを守って行動できる…等。
- ・ストレスコントロール力： 失敗してもその経験を活かして次は失敗しないと肯定的に考える、不満をためる前にその原因が何かを考え、解決できない場合は他者に相談する、気分転換をはかる…等。

※上記解答例は、本プロジェクト全コンソーシアム共通の「社会人基礎力による態度変容評価」の評価項目に対するガイドラインも参考にしています。

■参考文献：

「社会人基礎力に関する研究会—『中間取りまとめ』—」社会人基礎力に関する研究会（平成18年1月）  
<http://www.meti.go.jp/press/20060208001/shakaijinkisoryoku-honbun-set.pdf>

グループで「チームで働く力」の具体的な行動例を考え、クラス全体で共有する。

Part 2 業界調査

**第2回 日本の主要業界を知る（1）  
調査の準備をする**

●目的

業界名を知る

学生の中には、「志望業界はもう決まっているので、他の業界を知る必要はない」と考えている人もいるかもしれませんが、そのような人にとっても、広く業界を知ることは就職への可能性を大きくします。

●目標

業界調査のグループを作り、調査する業界を決める

第7回の授業のプレゼンテーションに向けて、第4回から第6回まではグループごとに業界を調査しまとめる作業をしていきます。そのために第3回では調査の手順と調査内容をクラス全員で共有します。そうした今後の活動に向けてグループを決定し、そのグループで調査する業界を決めるのが今回のゴールとなります。

業界調査の  
スケジュール

第2回	調査に向けてグループ分けと調査業界の決定
第3回	外食業界を例に調査の手順と内容の共有
第4～6回	作業
第7回	発表

●手順

- 1) タスク 1-1, 1-2 企業調査の動機付け
- 2) タスク 2 主な業界名を知る
- 3) タスク 3-1 業界調査のグループを決める
- 4) タスク 3-2 調査する業界を決める
- 5) タスク 3-3 調査についてのオリエンテーション

●準備するもの

書籍 『2011年版図解革命！業界地図最新ダイジェスト』（一橋総合研究所監修、高橋書店、2010）  
→新年度版を参考のこと

0. 今日の授業内容の流れ、ゴールを説明

(5分)



1. なぜ業界調査は必要か？

1-1> 次の文を読んでAさんはこれからどうすればよいか、話し合おう。(5分)



ここでは、最初から業界を絞りすぎたために就活がうまくいかなかった学生の実験談を読み、そこからいろいろな業界を調べることが必要であることの気づきを得ます。

各自体験談を読み終わったら、グループで意見を交換し、クラスで共有する。

1-2> 次のことを話し合おう。

(5分)



業界や業界情報に関する知識が不足していることへの気づきがゴール。

グループで話し合っ、考えをクラスで共有する。

2. 日本にはどんな業界があるか？

2> クイズで業界の名前を覚える。

(40分)



業界の分け方は様々です(例えば「電気機器業界」か「家電業界」か。「エネルギー業界」か「インフラ業界」か「電力・ガス業界」か等)。また、業種と業界の定義付けも明確ではありません(資料によって、業界と業種のどちらが上位項目で下位項目か違っていたり、同義に使われていたりします)。

従って、ここではあえて業種ということばを使うことはやめて、「マイナビ」と『業界と職種がわかる本'12年版』(岸健二編、成美堂出版、2010)、『2011年版図解革命!業界地図最新ダイジェスト』(一橋総合研究所監修、高橋書店、2010)を参考資料として、業界名を取り出しました。ここでの目的は、主な業界名を知ることと、それらの業界がおおまかにイメージできることにあります。そのため、業界クイズでは、業界を大きく7つのグループに分け、Q1からQ7まで業界理解の助けになると思われることばを問題に埋め込みました。

グループでクイズを考え、1問ごとにクラスで答えを確認する。

業界クイズ解答

Q1 農林・水産(種子) / 食品(飲料) / 自動車(トラック) / 電子・電気機器(冷蔵庫)  
 / 精密機器・医療用機器(カメラ) / 薬品(医薬品) / 鉄鋼(粗鉄)

- Q2 電力（石油の取引）／不動産（土地の売買）／建設（住宅建築）  
 Q3 専門商社（ B ）／総合商社（ A ）  
 Q4 百貨店（ T ）／スーパー（ S ）／コンビニ（ S ）  
 Q5 口座振替や送金を代行する業界（銀行）  
 Q6 固定電話を扱う業界（通信）  
 Q7 ツアーコンダクター（旅行）／社会福祉士（医療・介護サービス）／フロントクラーク（ホテル）／講師（教育）

### 3. 業界調査の仲間を作る

- 3-1 関心のある業界を1人3つずつ選び、共通の業界を選んだ3人で1グループを結成する。 (10分) 

関心のある業界を、業界クイズに出てきた業界の中から選ぶ。

大きく分けた7つの業界のどれをだれが選んだか、クラス全員で見て、3人1組の「業界調査グループ」を作る。

- 3-2 グループごとに業界図を見ながら、調査する業界を決定しよう。 (10分) 

前述したように、業界の分け方は様々で、たいへん細かく業界を分けているサイトや本もあります。もし学生が細かく分けられた業界（例えば、「ホームセンター業界」「クレジットカード業界」）を調査すると言った場合、一般的でないために調査がスムーズに進まない恐れがあります。従って、業界クイズに出てきた業界から1つ調査対象を選ぶことが望ましいでしょう。その対象の業界全体における位置づけと、他にも業界があるということに気づくため、業界図（リソース集 p.5 資料1）を見ながらひとまず業界を決定します。

- 3-3 業界調査のためのオリエンテーションを行う。 (15分) 

1. 第3回から第7回までのスケジュール確認(手引き p.12 参照)。
2. チーム活動: ここで結成した「業界調査グループ」は第12回の授業が終了するまで、今後、<仲間>として協同作業を行っていく。
3. 社会人基礎力の中の「チームで働く力」自己評価について(第3回～第12回) 今後、仲間

との協同作業を行っていく上で、チームワークを意識できるよう、毎時間後、＜社会人基本力「チームで働く力」自己評価シート＞を記入する。

シートのテンプレートは活動冊子（p.49）に添付。毎回人数分コピーして配布する。

4. プレゼンテーションの評価について（手引き p.5）参照。

5. 課題シート1「業界調査」について。

プレゼンテーション後に「業界調査」のレポートを提出する。

グループで調査した項目すべてを各自がレポートにまとめる（調査→分析→気づき）。

評価は（手引き p.5）参照。

## 第3回 日本の主要業界を知る（2） 調査方法と手順を学ぶ

### ●目的

業界の調査方法と手順を知る

今後1人で業界調査ができるように、調査方法と手順を学びます。

### ●目標

プレゼンテーションまでの具体的な準備作業がわかる

「外食業界」を例に、何をどのように調べ、準備するかを理解します。

### ●手順

1) 「外食業界」を例として学ぶ

- ① 調査項目
- ② リソース
- ③ 情報の収集
- ④ 情報の共有
- ⑤ 視覚資料の作成

2) チームで働く力1 自己評価

### ●準備するもの

ストップウォッチ、パソコン（ネットに接続）、リソース集にある書籍

## 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールを説明

(5分) 

## 1. 「外食業界」を調べてみる

### 1-1 準備活動をする。

(5分) 

グループで外食業界について、調査しておきたいと思うことを話し合い、メモしよう。

「外食業界」を調査するとしたら、どんなことを調べればいいのかを考えさせます。

### 1-2 調査方法と手順を考える。

#### ①調査項目

(10分) 

タスク 1-1 に、必要な調査項目が出て来たかを確認します。  
出て来なかった項目と調査内容を全体で共有します。

## ②リソース

(10分)



ここでは、調査のためのリソースを紹介します。

業界調査は、一般的な就職活動支援サイトに特集でまとめられているものが便利です。サイトに個人で登録しておく、今後就職活動に役立つ情報が得られるので登録を勧めて下さい。その他、業界と職種についてわかりやすく整理してある書籍もあり、また、本格的に業界調査をする場合は、業界新聞で、最新の業界ニュースを知ることができますので、実物を見せ、紹介して下さい。

## ③情報の収集

(20分)



誰がどの項目を調べるか話し合っ決めて、実際に教室内でパソコンを使用して検索してみます。

情報収集は速読法を使いますので、あらかじめ「スキミング」「スキヤニング」の技法について理解しているかどうか確認して下さい。

検索キーワード例) 外食業界市場規模、外食業界歴史、外食業界課題

キーワードで検索できない場合は、リソース集 (p.6) にある就職活動支援サイトから「業界特集」を探せば調べることができます。

## ④情報の共有

(15分)



調べた項目を活動冊子 (p.15) のワークシート 3-1 にまとめ、グループ内で発表し合います。

## ⑤視覚資料の作成

(15分)



各自調べた項目をパワーポイントのスライドにし、できたスライドをグループ内でチェックし合います。チェック項目としては、主に、レイアウトや情報量など、視覚的にわかりやすいか、効果的であるかなどを見るように指導します。

参考までに次ページに視覚資料作成例を添付します。あくまでも流れや枚数を見るための参考資料ですので、実際は絵や写真等視覚的情報を効果的に入れるよう指導して下さい。

## 外食業界の視覚資料作成例

### 外食産業とは？

「食」を通じて、お客様に幸福感を提供する  
多様化する個人ニーズに応える形で、新たな  
ビジネススタイルをつねに模索

分類は多種多様

### 外食産業の現状は・・・？

- 市場規模 30兆円(巨大市場)  
97年より縮小傾向→現在、景気回復で利用客は伸びている  
店舗数も多く、競争率がはげしい
- おもな業態  
ファーストフード・ファミリーレストラン・喫茶・カフェ  
居酒屋・焼き肉・丼・麺・寿司・カレー

### 注目企業

ファーストフード：日本マクドナルドホールディングス、ダスキン  
日本ケンタッキーフライドチキン、モスフードサービス

ファミリーレストラン：すかいらーく、ロイヤルホールディングス  
デニーズジャパン、サイゼリヤ、ジョナサン

喫茶・カフェ：ドトールコーヒー、スターバックスコーヒージャパン

居酒屋：モンテローザ、大庄、コロワイド、ワタミ

### 業界の歴史

- 70年代 →マスのプロダクトとシステム化  
アメリカの食文化の影響を受ける  
レストランチェーンのフランチャイズ化
- 80年代 →居酒屋チェーン
- 90年代 →宅配サービス
- 現在 →「マス」から「個」の時代へ

### 現在の問題点

- BSE問題
- 鳥インフルエンザ問題
- ファーストフードの低価格競争

### 今後の展望～どんな企業が成功する？

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| A.顧客ニーズに応える<br>高級志向に応える力<br>(サービスと質の向上) | B.効率の追求<br>低価格化を可能にする<br>システム力 |
|---|--------------------------------|



A & Bの企業！！

### これからのキーワード

- 中食(なかしょく)産業  
 外食と家庭での料理の中間  
 総菜や弁当を売って、家庭で食べる  
 食品を販売。いわゆるテイクアウトの店

外食産業の1/4の規模

### 外食産業の職種

- 店長
- スーパーバイザー(SV)
- 企画・管理
  - ・店舗開発
  - ・宣伝／広報
  - ・メニュー開発
  - ・管理

### 求められる人材

「人」  
とコミュニケーションする力  
に喜んでもらうことに喜びを感じる才能  
を育てる力

「人」に関わる高いレベルの能力が  
→ 求められる

## 2. 今日の「チームで働く力」(1)を自己評価する

(10分)



今回から第12回まで、毎回授業の最後に自己評価をします。

初回は評価のしかたについて、クラスでオリエンテーションを行います。

### \* 「チームで働く力」自己評価オリエンテーション

自己評価の前に評価のしかたを説明します。

#### <準備>

毎回、活動冊子 (p. 49) の自己評価シートを人数分コピーし、配布する。

#### <評価シート記入の方法>

よく発揮できたと思われる力、発揮できなかったと思われる力をそれぞれ1〜2つ選んで、理由も記述する。



評価結果を客観的に観るために、一緒に活動をしてきた仲間同士、お互いに評価し合う。

例) Aさんは〇〇のタスクで、私の話をよく聞いてくれたので話しやすかった。

Bさんは〇〇のタスクで、資料を探すのをよく手伝ってくれたので作業が進んだ。

Cさんは、相手が理解しているかどうか、もっと確認するようにすれば、発信力がつくのでは? …等。

「あなたは〇〇力がない」と言うのではなく、Cさんの例のようにポジティブにアドバイスすることを積極的にさせる。

## 第4回 日本の主要業界を知る（3） 業界について調査する

### ●目的

#### 業界調査ができる

前回（第3回）の授業で、外食業界を例に、業界の調査方法や調査項目について学習しました。本授業では、学習者が関心のある業界を知るために、実際にその業界を調査し、情報収集と分析を行います。最終的にはこの活動を通して、1人1人が自立して業界調査ができるようになることを目指します。

### ●目標

#### 業界調査の計画を立て、調査を開始し、まとめる

それぞれのグループが、この時間内に調査すべき項目を調べまとめることが理想ですが、グループによって進捗状況に差が出るのが考えられます。従って、今回目標として設定した活動が、遅くとも次回（第5回）の授業開始時までには終了していることが望まれます。

### ●授業の手順

- 1) タスク 1-1 調査項目を決める
- 2) タスク 1-2, 1-3 調査方法を決める
- 3) タスク 2-1 調査する
- 4) タスク 2-2 次回（第5回）までにやってくることを確認する
- 5) チームで働く力2 自己評価

### ●準備するもの

パソコン

## 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールをクラスに説明

（5分）



## 1. 調査計画を立てる

1-1 選んだ業界について何を調べる必要があるか、話し合っ

（5分）



調査項目として挙げたのは、前回外食業界で見た項目です。グループは、これらの項目をすべてチェックしてもよいし、いくつか絞って選んでも構いません。

**1-2** 調べたい業界がどのリソースで調べられるか確認する。 (15分) 

リソース集 (p.6) を参照にして、自分たちの選んだ業界が調べられるかどうか、実際にリソースを見て確認します。

**1-3** リソースを決定する。 (5分) 

他にも使えそうなリソースがあればそれを出し合います。人的リソースというのは、資料を読むのを手助けしてくれたり、書いた文を見てくれたりする日本人の友人も含まれます。ここで出されたサイトや書籍は、今回使われることがなくても、今後独自に調査するときに役立つものを紹介しています。

**2. 調査を開始する**

**2-1** 調査しよう。 (40分)  または 

ここでは、1つの資料 (例えば、マイナビ) をグループで一緒に読んでまとめても、先にチェックした調査項目を分担して調べまとめても構いません。わかったことはワークシートにまとめていきますが、調査項目は、後にスライドを作成する際、そのままタイトルとして使用することもできます。また、ここで書かれた内容を、より簡潔に表現 (例えば、箇条書き) することでスライドが出来上がります。つまり、このワークシートがスライド作成のもとになります。

グループ、もしくは1人で資料を読み、ワークシートに書き入れる。

**2-2** 調べた項目とまだ調べていない項目を明確にし、プレゼンテーションまでのスケジュールを確認して、項目担当責任者を決める。 (15分) 

時間を見て作業を終わらせ、ここまで調べた項目名と調べきれなかった項目名を、表の「調べた項目」と「次回までに調べてくる項目」に記入します。次に、プレゼンまでのスケジュールを確認し、各項目の担当責任者をグループで話し合って決めます。担当者は、その項目の、調査とパワーポイントのスライド作成とオリエン当日の発表に責任を持ちます。

グループで、調べた項目と次回までに調べてくる項目を明確にし、プレゼンまでのスケジュールを確認の上、担当責任者を決める。

**3. 今日の「チームで働く力」(2)を自己評価する**

(5分) 

自己評価シート2に記入させ、グループメンバーと結果を共有させます。

## 第5回 日本の主要業界を知る（4）

### 発表の準備

#### ●目的

調査内容を発表する

今回、学生たちは業界についてそれぞれが調べまとめたワークシートを持ってきました。それをもとに発表の準備（スライド作成と担当項目の原稿書き）が整うことを目指します。

#### ●目標

調査内容をスライドにまとめ、発表用の原稿を書く

作業の進み方はグループによって大きく異なることが予想されます。90分内にスライドが成功しなかった場合は、そのグループで次回までにどうやって完成させるか（例えば、時間と場所を決めて集まって作る、1人が引き受ける等）を話し合い、完成するよう指示します。原稿に関しては、各人の時間外個人作業となります。

#### ●手順

- 1) タスク 1-1 シートにスライドをイメージして書き込む
- 2) タスク 1-2 スライドの順番を決める
- 3) タスク 1-3 スライドを作る
- 4) タスク 2 発表用の原稿を書く
- 5) チームで働く力3 自己評価

#### ●準備するもの

パソコン

### 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールを説明

(5分)



### 1. スライドを作る

 グループのワークシートを集めて、調べた項目と内容を確認し、担当責任者がスライドシートにスライド構想を書き入れる。 (25分) 

各自がまとめてきたワークシートをグループで見ながら調べた項目と内容を確認し、項目ごとに責任者がスライドで見せるのと同じようにシートに書いていきます。これはあとで一気に入るにスライドを作り上げるための作業です。

グループで調べてきた内容を確認し、各自がスライドシートを作る。

1-2 どの順番で発表したらわかりやすいかを考えて並びを決める。 (15分) 

各自が書いたシートを集め、発表するときの順番を決めます。この時点で見やすくなかったりわかりにくかったりするシートがあったら、協力して直します。

1-3 パワーポイントを使用して発表できるようにスライドを作成する。 (20分) 

タスク 1-2 で出来たシートをもとにスライドを作ります。出来上がったらグループでデザイン的に見やすく出来ているか、1枚の情報量として多(少な)すぎないか、順番はいいか、をチェックし、不適當な箇所を直します。

## 2. 原稿を書く

2 担当項目の発表用原稿を書く。 (20分) 

文法や文字はもちろんですが、聞いてわかりやすい語彙や表現を使うよう意識して、自分が担当した項目の発表原稿を書きます。書き終わった原稿はチェックして下さい。

3. 今日の「チームで働く力」(3)を自己評価する (5分) 

自己評価シート3に記入させ、グループメンバーと結果を共有させます。

## 第6回 日本の主要業界を知る（5） プレゼンテーションのリハーサル

### ●目的

#### プレゼンテーションを実施する

次回（第7回）プレゼンが実施できることを目指します。

### ●目標

#### プレゼンテーションの準備を整える

次回までに、全員が原稿を覚え、スライドを指し示しながら、発表できるようになることを目指し、チームで完成形を作り上げます。

### ●手順

- 1) タスク 1-1 「前置き」と「まとめ」を完成し、プレゼンの流れを確認する
- 2) タスク 1-2 通しでやってみる
- 3) タスク 1-3 配布資料を準備する
- 4) チームで働く力4 自己評価

### ●準備するもの

パソコン

## 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールを説明

(5分)



## 1. 発表の流れを作る

1-1 発表の手順を決める。

(25分)



「本論」の部分は完成していますので、「前置き」と「まとめ」をグループで作成します。

### 前置き・あいさつ

例) 「おはようございます。私たちのグループは外食業界について調べました。メンバーは、ヤマダ、サトウと私スズキです。よろしくお願いします」

### まとめ・各人の今後

この業界を調べた結果、さらに詳しく調べてみようと思うか、他の業界を調べようと思うか及びその理由について各自で考え、発表する。

まとめ・あいさつ

例) 「以上で私たちのグループの発表を終わります。ありがとうございました。何かご質問やご意見がありましたら、お願い致します。」

クラスで発表の流れを確認し、グループで「前置き」と「まとめ」を考える。

1-2 リハーサルをする。

1) 次回（第7回）の本番では、就活中または就活後の日本人学生がビジターとして参加し、  
教師とともに発表の評価をするということを確認しておきます。 (5分) 

- |       |   |
|-------|---|
| チーム評価 | 内容（よく調査できていたか、調査項目は十分か）<br>構成（話の流れはわかりやすかったか）<br>説得力（内容がよく伝わったか）<br>視覚資料（スライド）のわかりやすさ |
| 個人評価  | 言語（文法／語彙・表現）<br>非言語（声の大きさ・スピード／イントネーション・発音<br>アイコンタクトで訴えたか）                           |

2) グループで、前置きからまとめまでを通して練習します。 (45分) 

- ・スライドと内容は合っているか  
パソコン上で、グループごとに確認しながら発表の内容と合っているかどうか見ていきます。
- ・つながりはうまくいっているか  
スライドや人がかわるごとに、ことばがうまくつながっているか（例えば、「次に」「今スズキ（前の発表者）が言いましたように」等）を見ます。
- ・時間配分  
発表の時間は3名1グループ、クラスに5グループあると仮定して、1グループの時間は、質疑応答も含め、9分程度になると思われませんが、グループの数によって、その時間を調整して下さい。時間が厳しいようでしたら、各グループにストップウォッチを配って、時間内に終わらせるように練習させます。

グループでリハーサルを行い、微調整をする。

1-3 配布資料の準備をしよう。

(5分)



次回ビジターに配布する資料を人数分コピーしておきます。

グループで配布資料を準備する。

2. 今日の「チームで働く力」(4)を自己評価する

(5分)



自己評価シート4に記入させ、グループメンバーと結果を共有させます。

## 第7回 日本の主要業界を知る（6）

### プレゼンテーション【ビジターセッション】

#### ●目的

##### 日本の主要業界を知る

発表チームの数だけの業界についての情報が得られることとなります。各自興味のある業界を選んで調査しているわけですが、最初のうちから業界を絞るとするのは、視野が狭くなり、あまりいい方法だと言われていません。浅くてもいいので、広く業界を眺められたほうがいいとされています。

#### ●目標

##### 調査したことをクラス全体に発表し、共有する

グループで調査した業界についてプレゼンし、全体で業界の情報を共有します。就活経験のある日本人学生にビジターとして参加してもらい、各発表後に意見やアドバイス、質問をもらえれば、学生のモチベーションも上がりますし、より多くの気づきが得られるのではないかと思います。ぜひ、就活について何らかの視点を持っている人をビジターとして呼んで下さい。大学の就職部の方でもいいと思います。クラス内だけでは、業界についての知識が浅く、発表後、互いにもっと調べたほうがいい点や分析のしかた等、アドバイスをし合うことが難しくなると思われます。

#### ●手順

- 1) タスク 1-1 準備の確認
- 2) タスク 1-2 発表の順番、評価基準説明
- 3) タスク 1-3 発表
- 4) タスク 1-4 全体で振り返り
- 5) チームで働く力5 自己評価

#### ●準備するもの

ストップウォッチ、プロジェクタ、マイク（必要であれば）、プレゼン評価シート

#### 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールの説明

(10分)



ビジターの紹介をします（各チームの自己紹介含む）。

## 1. プレゼンテーション

**1-1** ➤ グループで確認する。準備はできているか再度チェックしよう。 (5分) 

各グループでスライドや原稿など、最終チェックをさせて下さい（1番に発表するチームの機材の準備などをする）。

その間、ビジターに評価シート（活動冊子：p.50）を渡し、評価項目について説明します。

ビジターにはチームに対する評価のみをしてもらいます（個人用は講師の評価のみ）。

チーム用評価シートをビジターの人数分、コピーして下さい。

**1-2** ➤ 全体で確認する。 (5分) 

すでに前回の授業で説明している内容ですが、流れを円滑にするため、確認します。

**1-3** ➤ 発表する。 (60分) 

発表チーム数によりますが、最大15名のクラスで1チーム3名、合計5チームの計算で1チーム9分程度の時間を見えています。この時間にはあいさつ、発表、質疑応答のすべてが含まれます。次のチームに変わる準備時間が間に3分あり、この間にビジターと講師は評価シートを書き込みます。チーム数が少ない場合は調整して下さい。

**1-4** ➤ 発表後の振り返りをする。 (5分) 

ビジター、講師からの講評のあと、学生に振り返りをさせます。

- ・調査段階で難しかったことは何か
- ・調査をして、さらに理解を深めたい点があったか
- ・他に調査しようと思う業界はあるか
- ・今後の調査のしかたについて質問はあるかについて話します。学生の質問によっては、ビジターの方からアドバイスをもらって下さい。

**1-5** ➤ **宿題** 課題シート1（活動冊子p.25）に「業界調査」をまとめて提出する。 

今回調べた業界についてグループで調査した項目すべてを各自レポートにまとめます。

評価項目は（手引き p.5）の通り。そのレポートを見て、1回目の評価を行って下さい。

**2. 今日の「チームで働く力」を自己評価**

(5分) 

自己評価シート5に記入させ、グループメンバーと評価し合います。

Part 3 業界軸／職種軸を考える

第8回 私の業界軸／職種軸（1）

仕事を業界軸で考える

●目的

自分がやりたい仕事を、業界と結びつける

自分がやりたい仕事を考え、どんな業界でなら実現可能かがわかることを目指します。

●目標

自分がやりたい仕事は何かを考え、理由を明確にする

今回の授業から、いよいよ、自分軸を構成する「業界」「職種」「企業」の3つの軸を考えていきます。これが会社選びの判断基準になり、また、エントリーシートに記入する志望動機などにもつながります。

今回と次回で「業界軸／職種軸」を考えます。自分がやりたいと思う仕事は何かを考え、それが漠然としたものにならないよう、仲間の協力を得て、なぜその仕事がしたいのか、それはどんな仕事なのか、ということについて具体的にしていきます。

●手順

- 1) タスク 1-1 新たな視点——動機付け
- 2) タスク 1-2 動機の分析、発展
- 3) タスク 2-1 具体化
- 4) タスク 3-1 次回授業「職種軸」を考えるための準備
- 5) チームで働く力6 自己評価

●準備するもの

ストップウォッチ、リソース集 (pp. 7-8) 資料1「職種リスト」

0. 今日の授業内容と流れ、ゴールの説明

(5分)



1. 自己分析し、やりたい仕事は何かを考える

1-1) 自分が好きなこと、喜びを感じることから考えよう。

(10分)



「好きなもの（こと）や興味のあること」「喜びを感じる時」を考え、これを自分軸の土台（出どころ）とします。現時点では複数あっても、今後、業界や職種研究をしていく中で、

どの軸をメインにすればいいかがわかってくるようです。

方向性の定まらない学生には特に、この質問をしっかりと考えさせます。

**1-2** 1-1 を参考に、やりたい仕事は何かを考える。

(10分)



タスク 1-1 で考えたことを自分がやりたいと思う仕事につなげます。

ワークシート 8-1 (活動冊子 p.27) の 1 は業界に、2 は職種につながります。

複数(ワークシート 8-2)考えてもいいですが、次の作業(ワークシート 8-3)のために 1 つ選び、残りは、自分で分析するよう説明して下さい。

## 2. 業界選び

**2-1** 仲間の協力を得て、1-1, 1-2 で考えたことを、より具体化する。

(40分)



※所要時間は 4 人グループ (1 人 10 分) で考えています。

手順)

- ① ワークシート 8-1 (活動冊子 p.27) の 1 と 2 に記入したことを、ワークシート 8-3 の中央にある<きっかけ>欄に、3 に記入したことを、<業界>欄に写す。
- ② グループ(3~4人)を作り、1人ずつ順番に時間をとり(クラス人数によって時間を調整)、メンバーは、その学生の考え(方向性)がはっきりわかるような質問を考える。必ずする質問は「なぜ〇〇なのか?」と「その仕事をするるとどんな喜びがあるのか」の 2 つ。それ以外はいくつでも、相手の考えが明確になるような質問をする。
- ③ 質問を受けた学生は、答えがすぐに出ないものは、質問をシートにメモしておく。その他、仲間からのアドバイスがあればメモをする。  
この手順をメンバー人数分繰り返します。

※本授業で扱うのはワークシート 8-3 の<業界>まで、次回授業で<職種>を考えます。

## 3. 次回授業(職種選び)の準備

**3-1** 企業にはどんな職種があるのか考える。

(5分)



- ① 自動車会社を例に、その会社にはどんな仕事があるかグループで考えよう。

自動車会社を例に、その会社にはどんな仕事があるかグループで考えます。仕事によっては、自動車会社ではなく、他の関連、下請け会社の仕事になるでしょうが、ここでは、あまり気にせず、関係があると思われる仕事を何でも出したほうがいいでしょう。

- ② リソース集 (pp. 7-8) 資料1 「職種リスト」を見て、タスク 3-1 に出て来た仕事が、どんな職種になるかグループで考えよう。 (15分) 

a~d は、ワークシート 8-1 で扱っています。学生には、a~d のどれに○をつけたか確認させ、自分が何系の仕事を希望しているのかも意識させて下さい。

手順)

1. 「職種リスト」の事務・管理系、営業・企画系、技術系、金融系、販売・サービス系、クリエイティブ系が、大きな括弧で何を扱う仕事か、イメージします。
2. タスク 3-1 に出て来た仕事は、それぞれ a~d のどれにあたるか考えます。
  - a. ものをつくる仕事
  - b. ものをつくる／売るための仕組みを考える仕事
  - c. 社外の人と接する仕事
  - d. 社内で書類を扱う仕事

[解答] 事務・管理系 d / 営業・企画系 b, c / 技術系 a, b / 金融系 c, d /  
販売・サービス系 c / クリエイティブ系 a, b

次回までに「職種リスト」の職種名と職種内容を読んで来ることを宿題にします。

自分が興味のある仕事だけでもかまいませんが、浅く広くでもかまわないので、できるだけ多くの職種を見るよう勧めます。次回、準備活動としてクイズを出します。

4. 今日の「チームで働く力」(6) を自己評価する (5分) 

自己評価シート 6 に記入させ、グループメンバーと評価し合います。

## 第9回 私の業界軸／職種軸（2）

### 仕事を職種軸で考える

#### ●目的

「私の業界軸／職種軸」完成

「私の業界軸／職種軸」を完成させます。

#### ●目標

自分がやりたい仕事を、職種と結びつける

前回に引き続き、やりたい仕事を職種に結びつけるために、職種にはどのようなものがあるか、自分が目指す職種は何か、希望する業界にその職種があるのかを調べます。前回授業のワークシート8-3を完成させ、言語化します。

#### ●手順

- 1) タスク1 「職種リスト」クイズ
- 2) タスク2-1 自己分析続き（活動冊子 p.29 ワークシート8-3 完成）
- 3) タスク2-2 レポート準備
- 4) チームで働く力7 自己評価

#### ●準備するもの

ストップウォッチ、前回授業で使用したワークシート8-3、パソコン（ネット接続）  
リソース集（pp.7-8）にある資料1「職種リスト」と書籍

### 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールの説明

（5分） 

#### 1. 準備活動

1-1 ▷ 次の仕事内容の職種は何か。下から選んで（ ）に職種を書こう。（10分） 

「職種リスト」を読んで来ることを宿題にしていたが、理解度を測るためにクイズをします。

[解答] 1-e、2-i、3-a、4-l、5-g、6-f、7-c、8-d、9-j、10-b、11-k、12-h

#### 2. 職種選び

2-1 ▷ 自分がやりたい仕事はどんな職種になるか。（20分） 

——前回授業で使用した活動冊子（p.29）のワークシート8-3<職種>欄を完成させる。

\* リソース集 (pp.7-8) 資料1 「職種リスト」他 web、書籍を使用

前回使用したワークシート8-3の<職種>欄を考えます。

ワークシート8-1で、「a.ものをつくる仕事、b.ものをつくる／売るための仕組みを考える仕事、c.社外の人と接する仕事、d.社内で書類を扱う仕事」の中から選んだ仕事を参考に、また、ワークシート8-3で、仲間の質問から得た気づきをもとに、自分がやりたいと思う仕事は何かを考えさせ、リソース集の「職種リスト」やweb、書籍を使って調べさせて下さい。自分が興味のある業界でその職種があるかも調べさせます。

※職種別在留資格認定交付状況については、第1章「就活へ！はじめの一步」第3回めの授業で扱っています。

「就活へ！はじめの一步」リソース集p.4『平成21年における留学生等の日本企業等への就職状況について』

<http://www.moj.go.jp/content/000050170.pdf> (平成22年7月法務省入国管理局)を参照。

## 2-2 課題シート「私の業界／職種軸」を作成しよう。

<準備> ワークシートを見ながら、ペアで自分がやりたい仕事について話す。

(20分) 

ワークシート8-3をタスク2-2にある質問にそって言語化していきます。

ペアでお互いの「業界軸／職種軸」について話させて下さい。

質問に1つ1つ答えていくのではなく、まとめて話すよう指示して下さい。

<課題シート2 (ws9-1):活動冊子 p.33> 今話したことをまとめ、「私の業界軸／職種軸」シートを作成しよう。

(30分) 

話したことを課題シート2にまとめて提出させます。時間内に終わらない学生は宿題にしてください。

## 3. 今日の「チームで働く力」(7)を自己評価する

(5分) 

自己評価シート7に記入させ、グループメンバーと評価し合います。

Part 4 企業軸を考える

第10回 私の企業軸（1）

企業選びの条件

●目的

企業を選ぶ視点がわかる

ここから3回に渡って、働く場として企業を選ぶ際に、自分にとって必要な条件とは何かを考え、企業軸を完成することを目指します。企業を選ぶ視点にはどのようなものがあるかを知り、自分自身について考えます。

●目標

自分が企業選びの際に重視する条件とその理由を明確にし、企業がその条件を満たしているかどうか調べる方法を知る

重視する条件は人によって様々です。ここでは、考えの拠り所として、リクルートワークス研究所「就職先選びの際の重視項目」を挙げました。

事前に活動冊子（p.34）にある15項目を読んでくるように指示します。ここでは選んだ条件がその企業で満たされるかどうかを知るためのリソースについても考えます。

●手順

- 1) タスク 1-1, 1-2      新たな視点（企業選びの条件から）
- 2) タスク 1-3, 1-4, 1-5    選択方法（未来の視点に立つ）
- 3) タスク 2              企業調査の方法（情報リソース選択）
- 4) チームで働く力8      自己評価

●準備するもの

特になし

0. 今日の授業内容と流れ、ゴールを説明 (5分)



1. 企業選びの条件について考える

1-1▶ 活動冊子（p.34）の表は求職者が企業選びの際、重要視する15項目です。①～⑮のような会社に入ると、どんな自分がイメージできるか、例を参考にして話し合い、ワークシート 10-1（活動冊子 p.35）にメモしよう。 (25分)



15 の項目をしっかりと理解するために、また、正しく理解しているかどうかを確認するために、それぞれの項目について、条件が満たされている職場で働くとどんな利点があるか、グループで出し合ってワークシート 10-1 にメモしていきます。

グループで話し合っ、ワークシート 10-1 にメモする。

1-2 ▶ グループで出た話をクラスで発表し、気づきをワークシート ws10-1 に書き加えよう。

(15分)  - 

グループで出た話をクラス全体で共有します。グループ発表か、あるいは人数が多い場合は、クラス全体で自由に話し合い、自分のメモにない新たな気づきがあった場合は書き加えるよう指示してもよいでしょう。

グループで出た話をクラス全体で共有する。

1-3 ▶ 就職5年後の自分像を考えよう。

(15分) 

グループで、1人が質問例を参考に質問し、もう1人が記録係となってメモをとる。

自分が企業を選ぶときに重要視する条件を考えるには、将来の自分がどうありたいかを知ることが有効です。そこで、それほど遠くない将来、就職して5年ぐらいの望むべき自分像について考えます。ここでは、1人では得られない気づきを得るために、仲間と質問し合います。自分でメモをとらないのは考えることに集中するためです。グループのメンバー全員の自分像が明確になったところで、各自、記録をとってくれた仲間からメモを借りてワークシート 10-2 に記入します。

グループで質問し合い、それぞれがまとめる。

1-4 ▶ 1-3 で明確になった自分像を実現するには、どんな条件を満たしている企業を選べばいいか、活動冊子 (p.34) 「求職者が企業選びの際、重要視する条件 15 項目」から選んでワークシート 10-3 に書き入れよう。

(5分) 

(ただし、15 項目にない場合は、独自の項目を書き加え、重要視する項目は5項目以内で選ぶこと)

就職5年後の自分像を実現させるために、特に必要と思われる項目を選び、その番号をワークシート 10-3 に書きます。15 項目以外の条件がある場合は、それを記入します。

各自、自分が重視する項目を選ぶ。

1-5) なぜその項目を重要視するのか、グループで話し合い、ワークシート ws10-3 に書き入れよう。 (10分) 

なぜその項目を選んだかグループで話し合うことで、自分の考えをまとめていきます。話すことで明確になったことをワークシート 3 に記入します。

グループで話し合い、各自ワークシート 10-3 に記入する。

## 2. 企業調査の方法を知る

(10分)



2-1) 情報リソースを選ぶ。

下記の条件を満たしている企業かどうか、どのリソースを使ったらわかるかをグループで話し合い、適当なものに○をつけよう。(複数選択可)

どんなリソースを使えば、その条件が満たされている企業であることがわかるかを考えます。自分が選んだ項目だけでなく、今後重要視する条件が変わったとき役立つよう、すべての項目について考えます。このタスクの目的は web や四季報などの文字媒体以外に、実際にその企業で働く人の生の声を聞いたり、説明会に出席したりしないとわからないことが多い、ということを知ることになります。

グループで企業調査の方法を考える。

## 3. 今日の「チームで働く力」(8) を自己評価する

(5分)



自己評価シート 8 に記入させ、グループメンバーと結果を共有させます。

## 第11回 私の企業軸（2） 大企業と中小企業【ビジターセッション】

### ●目的

#### 企業選びの視野を広げる

前回（第10回）は企業選びの際、重要視する条件について考えましたが、もう1つの大切な視点は、大企業か中小企業かという観点から企業を考えることです。それぞれの特徴や違いを知り、今後就活をする際に、中小企業も視野に入れ、自分の希望する仕事や将来像と、よりマッチするのはどちらなのかを考えていくことが望まれます。

### ●目標

#### 規模から見た企業について知る

リソース集（pp.9-13）資料1を読み、それぞれの特徴や違いを理解します。

※但し、このテーマで話ができる方（大学就職課、企業人事部、派遣コンサルタントの方等）によるビジターセッションが可能であれば、講義を依頼して下さい。

### ●手順

- 1) タスク 1-1 企業選びの視野を広げる動機づけ
- 2) タスク 1-2 講義を聞き（資料を読み）、大企業と中小企業の特徴を知る
- 3) タスク 1-3 企業軸を作る視点の1つに企業の規模を入れる
- 4) 「チームで働く力」 9 自己評価

### ●準備するもの

リソース集（pp.9-13）資料1

## 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールを説明

（5分）



## 1. 企業選びの視点を増やす

### 1-1 企業についてグループで話そう。

（10分）



学生が知っている企業名のほとんどが、商品名やCMなどで見る有名企業や世界的に知られている大企業であることが予想されます。CMをするほとんどの企業は一般消費者を対象とした商品を宣伝しているのであり、企業を対象とした製品を作っている企業（例えば、宇宙機器の部品を作る企業）はほとんどマスコミに登場しません。しかし、広く一般的には知られてい

ない中小企業の中にも、世界でもそこにしかない技術を持つ企業や、世界的に評価される製品を作る企業など、優良企業が少なくありません。中小企業について調べる方法としては、地元の商工会議所に問い合わせる方法や中小企業の検索サイトを紹介します。

■参考書籍

『就職ナビゲートシリーズ 働きがいのある会社にある 中小企業・ベンチャー企業への就職のすすめ』

TAC 出版 pp.147-150 参照

グループで話し合い、クラスで共有する。

1-2 リソース集 (pp.9-13) 資料1を読んで、大企業に関することと、中小企業に関することを下の表にまとめよう。

(55分) 

1人で資料を読んでから、大企業と中小企業の、主に組織や給与体系の違いについて、グループで要約し、クラスで共有します。

個人で資料を読み、グループでまとめ、クラスで共有する。

1-3 下の点について話し合っ、考えをまとめよう。

(15分) 

資料を読むことで、これまで考えていた企業選びの条件とは別の気づきが出て来ると思えます。また、大企業で働く場合と中小企業で働く場合、それぞれのメリットとデメリットについても気づいたことと思われま。1の質問では、「この資料を読んで初めてわかったこと」、2の質問では、「企業を選ぶ際、考えに入れておく必要があること」を中心にグループで話し合い、考えをワークシート 11-2 にまとめま。

グループで話し合い、まとめる。

2. 今日の「チームで働く力」(9) を自己評価

(5分) 

自己評価シート9に記入させ、グループメンバーと結果を共有させま。

## 第12回 私の企業軸（3）

### 仕事を企業軸で考える

#### ●目的

##### 「私の企業軸」完成

会社選びに必要な自分軸を作るために、現段階での企業軸を完成させます。

#### ●目標

##### 働く場として企業を選ぶ際、重視したい点は何かをまとめる

第10回と第11回の授業を振り返って、課題シート3を完成させ、提出するのが今回の目標です。もし、時間内に仕上がらなかった場合、提出日を決め厳守させます。

#### ●手順

- 1) タスク 1-1 第10回と第11回の授業を振り返り、考えをまとめる
- 2) タスク 1-2 課題シート3を作成する
- 3) 「チームで働く力」10 自己評価

#### ●準備するもの

特になし

### 0. 今日の授業内容の流れ、ゴールを説明

(5分)



#### 1. 企業選びのポイント

1-1 第10回と第11回の授業を振り返って次の質問に答え、仲間と話し合い考えをまとめよう。

(30分)

まず、個人で質問に対する答えをメモしていきます。次に、グループでその答えを発表し合い、不明瞭な点を聞き合って、明確にしていきます。

個人で質問を考え、グループで話し合う。

1-2 課題シート3 (活動冊子 p.42) 「私の企業軸」を作成する。

(50分)



企業文化や職場環境、待遇条件の中で自分が重要視する点は何か、それはなぜか、望む企業を見つけるためにどうするか、ということタスク 1-1 のメモをもとにまとめます。

2. 今日の「チームで働く力」(10) を自己評価する

(5分) 

自己評価シート 10 に記入させ、グループメンバーと結果を共有させます。

Part 5 まとめ

第13回 会社選びのための〈自分軸〉(1)

最終レポート作成

●目的

会社選びのための自分軸完成

最終レポート「会社選びのための私の〈自分軸〉」完成

●目標

これまでの活動を振り返り、〈自分軸〉完成に至るまでを整理する

最終レポートを書くために、これまでのタスクを振り返り、自分軸完成に至るまでの過程をまとめます。

●手順

1) タスク 1-1 個人でこれまでのタスクを振り返り、整理する

1-2 仲間に話すことで、曖昧な点を明確にする。

2) タスク 2-1 最終レポート作成

●準備するもの

特になし

0. 今日の授業内容と流れ、ゴールの説明

(5分)



1. 考えを整理する

1-1 次で順番で整理してみよう。

手順) ①から⑦の項目を順番に整理してみよう。

(15分)



まず、①から⑦の作業内容をクラス全体で理解します。その後個人作業となりますが、メモをとりながら考えるよう指示して下さい。

①私の〈自分軸〉はこれ!

業界、職種、企業研究からできた3つの軸を単純に集めるだけでもいいですし、自分で優先度をつけてもいいと思います。最初に作る自分軸ですから、就活前に1つの軸に絞ることは避けるよう説明して下さい。 →例) 金融業界に絞って活動する

②その根拠——なぜ、これが〈自分軸〉となったのか。

自己分析や仲間の質問による気づきを思い出し、自分軸ができた根拠を明確にします。

③調査や分析がまだ足りないところはどこか。

短い時間の中での活動でしたので、調査、分析で足りなかった点、さらに詳しく調べてみたいことは何かを考えます。

④その仕事について自分に足りない能力やスキルは何か。

その力をつけるために何をすればいいか。

その仕事に就くために必要な専門スキルや、専門ではなくても、今の自分に足りない力は何かを挙げ、その力をつけるためにどうすればいいかを考えます。

⑤いくつかある軸の中で、現時点で一番優先したいものはどれか。それはなぜか。

特にこれは大切にしたい、できるだけ詳しく調べたいと思うものはどれか、理由も考えます。

⑥そのために会社選びの第一歩をどうするか（何から始めるか）。

⑤を受けて、会社選びの第一歩として、まず何から始めるか、具体的な行動指針を考えます。

⑦自分の TO DO リストを作成する。

今後さらに調査、分析すべきこと、今からできること（ex. 就活支援サイトに登録する、資格取得など）をリスト化します。

クラス全体でレポートに書く内容について理解し、個人で考えをまとめる。

1-2 ▶ ペアでお互いに話そう。

(20分) 

聞き手は相手の話をよく聞き、わかりにくい点、曖昧な点を指摘したり、質問したりするなどして、お互いのレポート作成に協力し合おう。

ペアを組んで、お互いにまとめたことを1人ずつ話します。1人10分の時間をとっています。

終わった組から最終レポート記述に進みますが、曖昧なところはペアの協力を得て、必ず明確にしてからレポートに進むよう指示して下さい。

個人でまとめた考えをペアで聞き合う。

## 2. レポート作成

2-1 ▶ 最終レポートの作成を開始しよう。

(50分) 

最終レポート評価の一環として、保管していた第1回授業ワークシートの1-1と、この最終レポートを比較し、上達の度合いを見る手がかりとしてみて下さい。

## 第14回 会社選びのための自分軸（2） 発表【ビジターセッション】

### ●目的

＜自分軸＞について新たな気づきを得る

就活経験のある日本人学生にビジターとして参加してもらい、前回まとめた自分軸について発表を聞いてもらった後、質問、意見やアドバイスをもらうことで新たな気づきを得ることを目指します（例えば、いつごろから会社説明会に参加すればよいか、仲間との情報交換や励まし合いが大切になる、等）。

### ●目標

クラスの全員が、自分軸について発表し、意見やアドバイスを得る

1人1人が、就活経験者から、経験を踏まえた意見やアドバイスを得ることがこの時間の目標となります。

### ●手順

- 1) タスク1 発表の準備
- 2) タスク2 発表
- 3) タスク3 気づきを話す（第1回授業で書いた「会社選びに重視したいこと」と比較して）

### ●準備するもの

ストップウォッチ、ビジター用メモ用紙、第1回授業のワークシート 1-1「現時点で考える会社選びに重視したいこと」

## 0. 今日の授業内容と流れ、ゴールを説明

(5分)



### 1. 最終発表

#### 1 ➤ 発表の準備をしよう。

(10分)



クラスで発表の順番を決めて各自練習します。

#### 2 ➤ 発表しよう。

(60分)



1人の発表が終わるごとに、ビジターや教師から質問や意見、アドバイスをもらいます。

発表者の質疑応答能力は、総合評価の対象となります（手引き p.6 参照）ので、必ず、聞き手

に質問をさせて下さい。

ビジターにはあらかじめ、そのためのメモ用紙を渡しておきます。また、発表した学生は、そこで得たフィードバックを後々役立てることができるよう、フィードバックメモに書き込んでおきます。ここでは、クラスの人数を 15 人と想定して、フィードバックを含め 1 人 4 分と設定しました。時間が厳しいようでしたらストップウォッチを使用します。人数的に時間に余裕があるようでしたら、練習の時間や、フィードバックの時間を長くにとって下さい。

1 人ずつ、発表、フィードバックする。

**3** 気づきを交換する。

(15 分)



第 1 回授業で書いたワークシート 1-1：現時点で考える「会社選びに重要視したいこと」と最終レポートを比較して、会社選びの視点がどのように変わったか全体で話します。

## 第15回 社会人基礎力「チームで働く力」 私の強みと今後の課題

### ●目的

社会人基礎力「チームで働く力」について、自分の強みと今後の課題をまとめる

最終自己評価を行ない、職場で求められるチームワーク力における自分の課題を知り、どう克服していくか考え、発表します。

### ●目標

#### ①企業にとって、チームワークの重要性とは何かを考える。

インタビューを通して、企業のリーダーが考えるチームワークの重要性とは何かを知り、その意見を参考にしながら、自分たちの考えをまとめます。

#### ②「チームで働く力」について最終自己評価を行う

これまでグループ活動後に自己評価してきた「チームで働く力」の最終自己評価を行ない、自分の強み、今後の課題となる点をまとめて発表します。

### ●手順

1) タスク 1-1 企業のリーダーのインタビューを読み、クラスで内容を共有する。

リソース：経済産業省経済産業政策局産業人材政策室「企業の人事のプロに聞く『社会人基礎力』インタビュー」（平成21年11月）

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/jinjubuinterview.pdf>

○株式会社セブン-イレブン・ジャパン

○東京電力株式会社

2) タスク 1-2 チームワークが企業にどのようなメリットをもたらすかをクラスで話し合う。

3) タスク 2-1 「チームで働く力」を構成する6つの能力について、具体的な行動例をワークシートに書き込む。

4) タスク 2-2 最終自己評価シート（活動冊子 p.55）をまとめ、発表する。

### ●準備するもの

パソコン

0. 今日の授業内容と目的、ゴールの説明

(5分)



1. 企業側の視点でチームワークを考える

チームワークのメリットは何かを考えた場合に避けたいのは、「一人で作業をするより早く終わる」「手伝ってもらえる」等、個人のメリットに留まることです。現在、企業で社会人基礎力として「チームで働く力」が求められているのは、それが企業の利益につながるからにはほかありません。そこで、ここでは、視点を個人ではなく企業側に移すよう促して下さい。

1-1 企業のリーダーが述べているチームワークに対する考え方を、次の点に注目して読み、共有しよう。 (25分)



リソースとして、ウェブサイトに掲載されている経済産業省経済産業政策局産業人材政策室の「企業の人事のプロに聞く『社会人基礎力』インタビュー」より、「株式会社セブンイレブン・ジャパン」「東京電力株式会社」の方へのインタビューを読みます。企業のリーダーとしてチームワークに対する考えを述べていますので、クラス全体でその内容を理解し、次の話し合いの活動に繋げて下さい。

企業のリーダーのインタビューを読み、チームワークについての考えを共有する。

1-2 チームワークとはどのようなものか、それは企業にとってどんなメリットがあるのかをクラスで話し合おう。 (10分)



タスク 1-1 で理解した内容を参考に、さらにクラスで話し合います。学生から何も意見が出てこないようでしたら、こちらからいくつか例を出して下さい。

例)

- ・一人でやるよりもチームでやれば、能力を補い合って、より大きな力が得られる。
- ・個人に不測の事態が生じた際の被害が少なく済む。
- ・いろいろな視点があれば、早く問題に気づくことができ、失敗を回避できる。
- ・役割分担をすれば活動が広がり、ビジネスチャンスが増える。

企業にとってチームワークのメリットとは何か、クラスで話し合う。

## 2. 社会人基礎力「チームで働く力」最終自己評価

**2-1** ▶ これまでの活動を通して得た、各能力を発揮するための具体的な行動例をもう一度挙げてみよう。 (15分) 

第一回目の授業で、プロジェクトワークを始めるにあたり、ワークシート (ws1-2) に「チームで働く力」を構成する6つの能力の具体的な行動例を記入しました。それは、授業で行なうグループ活動の中で、各能力を発揮するためには具体的に何をすればいいかを理解し、クラスで共有するための作業でした。

今回、改めて行動例を挙げるのは、実際にグループ活動を行なってきたことで、その行動が前回以上により具体的になったことが考えられ、次に行なう最終自己評価に繋がりやすいと考えたからです。グループで行なってきた活動を振り返りながら、話し合っけて記入するよう指示して下さい。

グループで6つの能力について、具体的な行動例を話し合い、ワークシートに記入する。

**2-2** ▶ 「チームで働く力」について最終自己評価をしよう。

手順「チームで働く力」最終自己評価シート (活動冊子 p.55) 使用。

①自己評価シート1～10までを振り返り、6つの能力を下記のように再評価する。

(10分)



よく発揮できた◎      ときどき発揮できた○      ほとんど発揮できなかった×

これまでのグループ活動後の自己評価を振り返り、チームで仕事をするとき、自分がよく発揮できる力は何か、また、発揮するのが困難な力は何かを明確にします。

個人で自己評価をする。

②これまで一緒に活動してきた仲間を互いに評価し合う。

(10分)



これまで行ってきたように、自分の評価結果を客観的に観るために、一緒に活動をしてきた仲間に意見を聞きます。お互いに相手が気づいていない点を評価し合います。

例) Aさんは○○のタスクで、私の話をよく聞いてくれたので話しやすかった。

Bさんは○○のタスクで、資料を探すのをよく手伝ってくれたので作業が進んだ。

Cさんは、相手が理解しているかどうか、もっと確認するようにすれば、発信力がつくのでは？ ……等。

「あなたは〇〇力がない」と言うのではなく、Cさんの例のようにポジティブにアドバイスすることを積極的にさせて下さい。

他者からの評価をもらったところで、再度、評価シートの見直しをさせ、必要があれば書き直しをします。

お互いの評価結果をグループで発表し合い、仲間からの評価をもらう。

③自己評価シートの「振り返りと今後の課題」をまとめ、クラスで発表する。 (15分) 

チームに貢献できた点や、発揮できなかった力、また今後どのように克服していくかについてまとめ、発表します。

個人でシートの振り返りと今後の課題をまとめ、発表する。

◆各回のキーワード

- 1 自分軸 業界 職種 企業 重要視 就(職)活(動) 判断 基準 譲れない  
じぶんじく きょうかい しょくしゅ きぎょう じゅうようし しゅうしょく かつどう はんだん きじゆん ゆず  
 原動力 現状 動向 理念 社風待遇 発信力 傾聴力 柔軟性  
げんどうりょく げんじょう どうこう りねん しゃふうたいぐう はっしんりょく けいちようりょく じゅうなんせい  
 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力 社会人基礎力  
じょうきょうはあくりょく きりつせい しやかいじんきそりょく
- 2 調査 整備 運営 消費者 利益 付加価値 提供  
ちょうさ せいび うんえい しょうひしや りえき ふかかち ていきょう
- 3 手順 分類 把握 市場規模 展望 検索 特集 項目 収集 抜粋 要点  
てじゆん ぶんるい はあく しじょうきぼ てんぼう けんさく とくしゅう こうもく しゅうしゅう ぼつすい ようてん
- 4 概要 人材 分担 明確 担当  
がいよう じんざい ぶんたん めいかく たんとう
- 5 原稿 構想 並び 仕上がる 誤字脱字 言い回し  
げんこう こうそう ならび しあ ごじだつじ いまわし
- 6 整う 流れ 前置き 本論 まとめ 質疑応答 時間配分 目線 配布 改善  
ととの なが まえおき ほんろん まとめ しつぎおうとう じかんはいぶん めせん はいふ かいぜん
- 7 共有 構成 説得力 振り返り  
きょうゆう こうせい せつとくりょく ふかえ
- 8 自己分析 仕組み 接する 扱う 気づき 喜び  
じこぶんせき しく せつ あつか き よろこ
- 9 業務 具体的 やりがい 実現 (職種に) 就く  
ぎょうむ ぐたいてき やりがい じつげん (しょくしゅ) つく
- 10 条件 満たす 求職者 自分像 独自  
じょうけん み みたす きゅうしょくしや じぶんぞう どくじ
- 11 視野 規模 視点 優良 知名度 比較  
しや きぼ してん ゆうりょう ちめいど ひかく
- 12 ひかれる 出会う  
であ
- 13 整理 根拠 優先 曖昧 第一歩  
せいり こんきよ ゆうせん あいまい だいいっぽ
- 14 <特になし>  
とく
- 15 発揮 克服  
はつき かくふく

\*授業各回のキーワード

活動冊子の最終ページに各回のキーワード集をつけました。語彙クイズや学習者の予復習用に使用して下さい。

- 目的や指示も含め、各授業を進める上で必要か、またはクラス全体で共通理解が必要な語彙を選定。
- 重複する場合や、クイズ内の語彙は外した。
- <例>の中で使っている語彙は取り上げなかった。

■総合評価シート

日付：

氏名：

評価者：

評価項目	タスク	課題シート	クラス	評価
情報収集分析能力	必要な情報を探す	第 7/9/12 回 (課題シート 1~3)	第 3~5 回	
	資料を読む	第 7 回 (課題シート 1)	第 3~5 回 第 9/11 回	
2. 文書作成能力	課題シート 1 「業界調査」	第 7 回		
	課題シート 2 「私の業界軸／職種軸」	第 9 回		
	課題シート 3 「私の企業軸」	第 12 回		
	最終レポート 「会社選びのための自分軸」	第 13 回		
3. 口頭コミュニケーション能力	プレゼンテーション		第 7 回	
	最終発表の質疑応答能力		第 14 回	

総合評価：

コメント：

## ■ 総合評価 評価方法

4回分の課題シートとクラスでのプレゼンテーション、作業活動によって、以下の項目を評価する。

評価点は、A+、A、B、C、Fとし、それぞれA+ (90%以上)、A (80%以上 90%未満)、B (70%以上 80%未満)、C (60%以上 70%未満)、F (60%未満) に相当する。

### 1. 情報収集分析能力

課題シート及び授業中の作業活動によって評価を行う。数値化しないので、評価は、成果物（課題シート1～3）、及び授業中の学習者の様子を観察した教師の判断となる。

### 2. 文書作成能力

課題シート1～3、及び最終レポートのそれぞれの点数を%に換算し、A+～Fまでの評価を行う。

### 3. 口頭コミュニケーション能力

第7回プレゼンテーション、第14回最終発表の質疑応答能力それぞれの点数を%に換算し、A+～Fまでの評価を行う。

## 総合評価

以上の能力を総合的に判断しA+～Fまでの評価を行う。

○監修

財団法人 海外技術者研修協会

○執筆者

山本弘子 カイ日本語スクール 代表  
松尾恵美 カイ日本語スクール 専任講師  
中村和弘 カイ日本語スクール 専任講師  
倉本文子 カイ日本語スクール 専任講師  
深澤道子 カイ日本語スクール 非常勤講師  
増田アヤ子 カイ日本語スクール 非常勤講師  
松本直美 カイ日本語スクール 非常勤講師

○イラスト

柳原満月

※執筆者の所属は教材作成時（平成19年度）のものです。

本教材は財団法人海外技術者研修協会が経済産業省より受託し実施した「アジア人財資金構想・共通カリキュラムマネジメントセンター事業」の一環として開発されました。

---

---

監修

財団法人 海外技術者研修協会

〒120-8534 東京都足立区千住東1-30-1

電話 03(3888)8211 <http://www.aots.or.jp>

2011年3月

---

---

©2011 The Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS)

不許複製・転載